

評価結果公表票

【評価実施概要】

事業所番号	0270301088
法人名	社会福祉法人 同伸会
事業所名	グループホーム ほたる
所在地	青森県八戸市大字大久保字大山32番地1 (電話)0178-25-0117
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年1月21日

【情報提供票より】(平成21年12月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤	人, 常勤換算 7.1人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 13,000 円ほか	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要(12月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	71 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	総合リハビリ美保野病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

24時間の医療連携体制が取れる協力病院が隣接しており、利用者が自らの意思で、徒歩で受診することができる。また、特別養護老人ホームも隣接しており、デイサービス利用者とも交流を深めている。  
 苦情や要望の解決方法として福祉オンブズマンであるハネットを導入し、直接意見や要望を話す機会の少ない方や、話しにくい内容などには、誰もが気軽に活用できるよう投書箱を用意し、意見や要望を出しやすい雰囲気作りに努めている。また、運営推進会議に報告し、対応策等について話し合い、ホームのサービスに反映させている。  
 気候の良い時期には、利用者の気分転換に繋がるよう、外に出る機会を作っている。また、外出先は利用者の希望や習慣を取り入れ、利用者の身体状況に合わせて、移動方法や距離などに配慮している。  
 整理タンスや利用者の馴染みの道具を持ち込んだり、家族との写真を飾るなど、家庭環境との差を感じさせないような工夫をしている。また、職員と利用者と一緒に、利用者個々に合った居室作りを行っている。

【特に改善が求められる点】

日常生活自立支援事業や成年後見人制度について、スタッフ全員が理解することに期待したい。  
 グループホーム協議会等主催の研修会に参加したり、地域のケア会議に参加するなど、同業者と交流する場を設け、職員の育成や、サービスの質の向上に役立てることに期待したい。  
 災害時に備えて食料や寒さをしのげる備蓄をしており、水は井戸水を使用できるが災害時に備えて、飲料水として井戸水を確保しているが、安全性をより確保するため、ペットボトル等を準備することに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果を基に、改善事項等について会議で話し合い、改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者や管理者は、評価を行うことの狙いや活用方法を全職員に周知する取り組みを行っており、職員は理解している。自己評価を作成する際は、全職員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議でのメンバーに積極的に参加を促す取り組みを行っている。会議では自己評価や外部評価の結果を報告しているほか、メンバーの意見を引き出し、地域ボランティアの受け入れなど、ホームのサービスの質の向上・確保に繋がるよう努めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>オンブズマンを導入したり、ホーム内に投書箱を設置し、家族等が意見を出しやすいよう取り組んでいる。また、ホーム内に内・外部苦情受付窓口を明示し、継続的に家族に周知している。家族から出された意見は会議等で話し合い、ホームの運営や日々のケアサービスに反映させている。</p> <p>利用者の生活状況や受診状況を広報誌等を通じて定期的に報告している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>民家が遠いため近隣の方が気軽に立ち寄るのは難しいが、併設の施設の利用者が立ち寄ってくれたり、町内会の協力により、毎月定期的に2名づつ、地域ボランティアを受け入れ、交流を図る取り組みが行われている。ボランティアなど、外部の方を受け入れる際には利用者のプライバシーには十分配慮している。また、地域に出向き認知症に関する講座を開催するほか、小学校行事への参加や実習生の受け入れなど、ホームの専門性を地域に還元する取り組みを行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>民家が遠いため近隣の方が気軽に立ち寄るのは難しいが、併設の施設の利用者が立ち寄ってくれたり、町内会の協力により、毎月定期的に2名づつ、地域ボランティアを受け入れ、交流を図る取り組みが行われている。ボランティアなど、外部の方を受け入れる際には利用者のプライバシーには十分配慮している。また、地域に出向き認知症に関する講座を開催するほか、小学校行事への参加や実習生の受け入れなど、ホームの専門性を地域に還元する取り組みを行っている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>毎年新しい理念を掲げ、その理念に向かって一人ひとりが、自分のテーマとして取り組んでいる。理念は、全職員の思いをもとに作成しており、日々のケア場面で常に振り返り、理念の実現に努めている。</p> <p>外部研修への参加や高齢者虐待防止法に関する内部研修により、全職員がその内容を理解しており、虐待のないケアに取り組んでいる。虐待を発見した場合の対応についての取り決めがあり、全職員がその対応について理解している。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者が安心してサービスを開始できるよう、利用者の視点に立ったサービスの提供に努めており、利用者や家族等と十分に話し合い、双方の意向に沿えるよう調整している。</p> <p>職員は日々の生活の中で、利用者と喜怒哀楽を共感しており、一人ひとり理解できるよう努めている。また、利用者が得意分野で活躍できるよう支援し、支え合いながら生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画作成時は、可能な限り利用者の意見を聞くように努めているほか、職員間で十分に話し合い、作成している。必要に応じて家族や関係者など意見を反映させ、個別具体的なものとなっている。</p> <p>介護計画の実施期間を明示している。実施期間終了後は定期的に見直しを行っているほか、利用者の身体状況の変化時や、家族等の意向の変化時など、必要に応じて随時見直しを行っている。見直しを行う際は、関係者の情報を収集するなどし、現状に即した計画となっている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の言動をせかさず、利用者の訴えを優先したケアに努め、利用者の身体状況や一人ひとりのペースに合わせた柔軟な支援をしている。</p> <p>利用者の入浴習慣を把握し、週2回の入浴日を設定しているが、利用者の意向に応じて、毎日の入浴も可能である。職員は、利用者の入浴に対する羞恥心や負担感を理解した上で支援しており、入浴を拒否する利用者に対しては、声かけや対応などを工夫するなど、適切な支援を行っている。</p> <p>昼夜を想定した避難訓練や通報訓練を毎月行い、消防署と連携し、指導や助言を得ている。また、運営推進会議の参加者を通じて、災害時等の協力体制を整える取り組みを行っている。</p>

評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の他にホーム独自の理念を作成しており、現在再検討中である。管理者は地域密着型サービスの役割を理解し、より具体的に理念に反映させるよう取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や更衣室等に提示し、全職員に周知するよう取り組んでいる。職員は理念の意味を理解し、理念に沿った日々のサービスを提供している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域で認知症普及活動に参加している。	民家が遠いため近隣の方が気軽に立ち寄るのは難しいが、併設の施設の利用者が立ち寄ってくれたり、町内会の協力により、毎月定期的に2名ずつ、地域ボランティアを受け入れ、交流を図る取り組みが行われている。ボランティアなど、外部の方を受け入れる際には利用者のプライバシーには十分配慮している。また、地域に出向き認知症に関する講座を開催するほか、小学校行事への参加や実習生の受け入れなど、ホームの専門性を地域に還元する取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は、評価を行うことの狙いや活用方法を全職員に周知する取り組みを行っており、職員は理解している。自己評価を作成する際は、全職員で取り組んでいる。外部評価の結果を基に、改善事項等について会議で話し合い、改善に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でのメンバーに積極的に参加を促す取り組みを行っている。会議では自己評価や外部評価の結果を報告しているほか、メンバーの意見を引き出し、地域ボランティアの受け入れなど、ホームのサービスの質の向上・確保に繋がるよう努めている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回ほたる便りを発行し、配布している。また、自己評価や外部評価の結果も提出し、報告している。必要に応じて利用者の利便性の向上に役立つよう、行政との連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に応じて利用者や家族に情報提供を行い、制度の利用に繋がるよう支援している。また、外部研修に出来るだけ参加するよう計画し、全職員が日常生活自立支援事業や成年後見人制度について理解できるよう取り組んでいるが、全職員が制度に付いて概ね理解するまでには至っていない。	○	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、スタッフ全員が理解することに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や高齢者虐待防止法に関する内部研修により、全職員がその内容を理解しており、虐待のないケアに取り組んでいる。虐待を発見した場合の対応についての取り決めがあり、全職員がその対応について理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書について詳しく説明し、利用者や家族の意見を引き出す働きかけを行っている。契約改訂時や退居の際も、利用者や家族に説明を行い同意を得ているほか、退居の際は、利用者や家族に不安を与えないよう退居先の情報提供を行うなどの支援をしている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の生活状況や受診状況を広報誌等を通じて定期的に報告している。また、利用者の金銭管理状況は個人出納帳に記録し、定期的に報告しているほか、職員の異動など、利用者へのサービス体制に変化があった際は、お便り等で紹介している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	オンブズマンを導入したり、ホーム内に投書箱を設置し、家族等が意見を出しやすいよう取り組んでいる。また、ホーム内に内・外部苦情受付窓口を明示し、継続的に家族に周知している。家族から出された意見は会議等で話し合い、ホームの運営や日々のケアサービスに反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は異動や配置換えによる利用者への影響を理解しており、十分配慮している。担当職員の異動の際は、利用者には十分説明するほか、ほたる便りや運営推進会議でも報告している。引継ぎの際は、出来るだけ時間を設け、詳細に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の育成の必要性を認識し、年間研修計画を作成し、研修会を実施するなど、個々の力量に応じた研修に参加できるよう配慮している。研修受講後は報告書を作成するほか、伝達講習を行い全職員に周知している。また、職員を研修に派遣する際は、勤務体制に配慮している。法人内にはスーパーバイザーを確保し、職員の業務に関する相談等に対応している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者との交流や連携の必要性を認識している。地区のグループホーム協議会に加入しているが、同業者との交流や連携の機会を確保するまでには至っていない。	○	グループホーム協議会等主催の研修会に参加したり、地域のケア会議に参加するなど、同業者と交流する場を設け、職員の育成や、サービスの質の向上に役立てることに期待したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを開始できるよう、利用者の視点に立ったサービスの提供に努めており、利用者や家族等と十分に話し合い、双方の意向に沿えるよう調整している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の生活の中で、利用者と喜怒哀楽を共感しており、一人ひとりを理解できるよう努めている。また、利用者が得意分野で活躍できるよう支援し、支え合いながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が、利用者の視点に立った思いや意向等を把握するように努めている。必要に応じて、家族や関係者等から情報収集を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時は、可能な限り利用者の意見を聞くように努めているほか、職員間で十分に話し合い、作成している。必要に応じて家族や関係者など意見を反映させ、個別具体的なものとなっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示している。実施期間終了後は定期的に見直しを行っているほか、利用者の身体状況の変化時や、家族等の意向の変化時など、必要に応じて随時見直しを行っている。見直しを行う際は、関係者の情報を収集するなどし、現状に即した計画となっている。職員は利用者の状況に応じて常に観察や情報の把握に努めており、計画に反映させている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制や移送、外出支援を組み合わせ、利用者や家族等への意向に応じて柔軟に対応している。また、地域からのニーズに応じてボランティアを受け入れるなど、積極的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の受診状況を把握し、利用者や家族等が希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、協力医療機関と連携し、いつでも相談等を行える体制が整っている。受診結果は、その都度家族や利用者へ報告し、情報の共有を図っている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期の対応についてホームとしての方針を明確にしている。また、重度化や終末期の対応について利用者や家族、医療機関等と早朝からの話し合いを行い、意思統一を図っている。利用者の身体状況などに変化があるときには随時の話し合いを行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> <b>1. その人らしい暮らしの支援</b> (1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定や拒否をせず、利用者の羞恥心に配慮した声かけに努めている。また、利用者の意向に応じた常識的な呼び方をしている。職員は、個人情報保護法について理解しており、利用者の個人ファイル等は、利用者や訪問者の目に付かない場所で管理している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動をせかさず、利用者の訴えを優先したケアに努め、利用者の身体状況や一人ひとりのペースに合わせた柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望や好みに配慮されている。また、利用者の身体状況や意思に応じて、調理の準備や後片付けなど職員と一緒にしている。可能な限り職員も利用者と一緒に席に着き、食べこぼし等のサポートを行いながら食事をしている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴習慣を把握し、週2回の入浴日を設定しているが、利用者の意向に応じて、毎日の入浴も可能である。職員は、利用者の入浴に対する羞恥心や負担感を理解した上で支援しており、入浴を拒否する利用者に対しては、声かけや対応などを工夫するなど、適切な支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の生活歴や力量を把握しており、個々に応じた役割や楽しみを促す働きかけを行っている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い時期には、利用者の気分転換に繋がるよう、外に出る機会を作っている。また、外出先は利用者の希望や習慣を取り入れ、利用者の身体状況に合わせて、移動方法や距離などに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者や職員は、身体拘束の内容や弊害について理解しており、身体拘束を行わないケアを実践している。やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族への説明を行い、同意を得るほか、期間や経過観察など記録を残す体制を整えている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が自由に出入り出来るよう日中玄関を施錠していない。また、利用者が日常的に出入りする場所は施錠していない。職員は、利用者の外出傾向を察知できるように見守りを行い、外出傾向を察知した際は、職員が付き添うなどの支援を行っている。無断外出に備え、併設の施設から協力が得られる体制が整っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中や夜間を想定した避難訓練や通報訓練を毎月行い、消防署と連携し、指導や助言を得ている。また、運営推進会議の参加者を通じて、災害時等の協力体制を整える取り組みを行っている。災害時に備えて、食糧や寒さをしのげる物品を準備しているが、飲料水を備蓄するまでには至っていない。	○	災害時に備えて、飲料水として井戸水を確保しているが、安全性をより確保するため、ペットボトル等を準備することに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養バランスに配慮しており、法人内の栄養士の管理のもと、1日の総摂取カロリーや水分量も把握している。利用者の栄養摂取状況や献立についても栄養士からアドバイスをされる体制が整っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを作成し、必要に応じて見直しを行っている。また、法人内の看護師を講師として研修も行うほか、行政や保健所から最新情報を収集し、家族等にも周知している。ホーム内では、手洗いうがいの励行を呼びかけ、感染症予防に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は調度品や整理タンス、腰掛椅子などを配置し、家庭的な雰囲気that保たれるよう工夫している。職員の立てる物音は騒がしくなく、流れている音楽の音量や日差し・照明の明るさは適切である。</p>		
35	80	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>整理タンスや利用者の馴染みの道具を持ち込んだり、家族との写真を飾るなど、家庭環境との差を感じさせないような工夫をしている。また、職員と利用者が一緒に、利用者個々に合った居室作りを行っている。</p>		

※  は、重点項目。